

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立港中学校

校長 成田 達也

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ①「地域に開かれた学校」を発展させ、保護者や地域の方が学校づくりに主体的に参画し、「地域とともに生徒を育てる学校」の実現を目指します。
- ② より実効性のある学校関係者評価を実現し、教育活動を改善します。
- ③ 保護者や地域の方が、学校の教育活動に積極的に関わることを通して、相互理解を深めたコミュニティスクールを推進します。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

【地域の人材を活用した“キャリア教育講演会”】

2年生の職場体験学習事前のキャリア学習として、地域の協力のもと「キャリア教育講演会」を行いました。今年度は、2組の地域のスペシャリストを招いて、それぞれの仕事に関わる話をしていただきました。その仕事を選んだ理由、仕事の大変な所、やりがいなどを話していただきました。ゲストのみなさんの人柄にも触れ、仕事そのものにも興味を持つことができ、職場体験の事前学習として良い機会となりました。講演会後の生徒の感想を見ると、実際の職業に対するイメージが膨らんできたようです。生き生きとした将来の自分をイメージし、目標に向けて、一歩ずつ準備を進めていくことができました。

また講演会後に感想を書き、講演者の方々に送る取り組みを行いました。お話から気づいたこと、考えたことなどを文章にまとめたものを送りました。



(住友電装の연구원の方々)



(美容室 EDGE オーナー倉重さん)

【地域の人材を活用した“1年生SDG's講演会”】

「地域のクラブチームから学ぶSDG's」と題して、地元にある女子ラグビーチーム「パールズ」から飯田さんと三谷さんにお越しいただき、講演をしていただきました。「パールズ」は日本女子ラグビーのトップチームであり、全日本代表選手に選抜されているメンバーもみえます。今日は、飯田さんから海外での体験を交えてSDG'sについてのお話と実際にラグビーボールを使って体験をしました。



(パールズ飯田さん、三谷さん)



(飯田さんの海外での体験講演)

【港中学校花いっぱい運動】

港中学校花いっぱい運動は、25年以上も続く本校の伝統活動です。各学年が分担する学期にプランターの花の植え替えを行います。また、特別支援学級も国旗掲揚台の周りの花壇の整備を行っています。校舎周辺のプランターや花壇は、生徒だけでなく、来校される保護者・地域の皆さんに、心のやすらぎを与えています。

この活動には、PTAの環境活動として保護者の方々にも協力していただき、環境美化活動を推進しています。また、プランターの一部を、JR四日市駅に毎年寄贈していることから、今年度もJR四日市駅から感謝状を贈呈していただきました。



(2学期3年生による植え替え作業)



(JR四日市駅からの感謝状の贈呈)

【2年生ラグビー体験教室】

港中学校では、毎年地域の女子ラグビーチーム PEARLS（パールズ）の皆さんに四日市中央緑地公園サッカー場でラグビーを教えていただき、体験させてもらっています。生徒は、ラグビーボールを触ることもタックルすることも初めてですが、パールズの皆さんに基本からしっかり教えていただきました。最後はミニゲームも体験でき、楽しく貴重な体験ができました。



（タックルの基本練習）



（ミニゲーム体験）

【あいさつ運動と下校見守り活動】

毎日の教員の登下校指導、あいさつの励行に加え、毎週定期的に生徒会本部役員や学級委員による「あいさつ運動」を実施しています。さらに定期試験の前日に、PTA活動として保護者の方々にも参加していただいています。昨年度、生徒のデザインで作成したのぼり旗を活用して活動しています。港中学校では、この伝統のあいさつ運動を今後も継続して活動していきます。



（PTA あいさつ運動）



（生徒会あいさつ運動）

【浜田地区防災訓練】

11月に浜田地区防災訓練を港中体育館で、自治会の皆さんの協力のもと、港中学校全生徒が参加して行いました。初めに防災委員長の方から訓練の意義などの説明があり、その後、三重大学の川口先生から災害への対応についてわかりやすく教えてもらいました。3年生約30名の生徒が備蓄用のアルファ米の炊き出しに参加しました。炊いたご飯は、参加者全員に配付されました。



(川口先生講演会)



(自治会の皆さんとの炊き出し)

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

C Sみなとの委員の方々は、常に学校と家庭、中学生と地域の関わりを深めることを考えていただいています。また、「地元の港中学校を誇りにしたい」「中学生は地域の宝だ。」という気持ちで様々な行事に取り組み、協力していただいています。本校では、委員の方々の思いに応えるために学校行事等を計画し、全国学調等の結果から本校の学習の状況を把握していただくように努めています。併せて「学校評価」を実施し、PDCAサイクルを有効活用しながら、学校教育活動の改善にも取り組んできました。学校と地域がそれぞれの活動を共有しながら、「地域の子どもは地域が育てる」を基本に「港中学校区」でよかったと思える生徒の育成に貢献できたと思います。

「子どもたちの自尊感情のさらなる向上」、「登下校時も含めた挨拶の励行」、「災害時における地域での中学生の救助活動への参加」、等の意見をいただき、C S委員の方々の学校運営への参画の意識も高まっています。これを受けて教職員の意識も変容し、教育活動に生かすことができるようになりました。

3 今後に向けて

家庭⇄学校⇄地域という関係性から、さらに三者が包括的につながり、子どもたちを育てていく地盤が港中学校区にはあります。まだまだコロナウイルス感染症への対応は必要ではありますが、今年度は「小中合同避難訓練」、「浜田地区防災訓練」を行うことができました。今後は、地域あげての行事への中学生の参加も考えていきたいと思います。マンション・アパート住まいが目立つ中で、地元とのつながりを深める手立てを考えていく必要があるといえます。また、5つの連合自治区を担当する中部地区市民センターとの協働は、他地区とは異なり難しい面もあるかもしれませんが、新しい学校づくり、地域づくりに努めていきたいと思います。